

研修の概要

元気な学校園づくり

— 子どもに向き合う 地域に向き合う —

1 管理職研修

教育センターでは、大阪市の教育を推進するために、管理職に対して、幅広い視野の見識を持ったリーダーシップを発揮できるよう、研修を実施しています。

平成21年度は、新任校園長対象2回、2年次校園長対象1回、校園長対象8回、園長対象1回、新任教頭対象2回、2年次教頭対象1回、教頭・幼稚園主任対象を6回実施しました。

2 校園長研修会

◇深刻な社会状況の中で、大阪の教育が問われています。校園長研修会(1)において、7月7日、大阪教育大学の成山治彦理事にご講演をしていただきました。

府の教育行政の中核として取り組んでこられた成山理事は、今、私たちが歩むべき教育の方向について、熱い思いを込めて語られました。

「元気な学校園」とは、子どもたちが元気に生活を送っている学校園です。学習や学校園生活や友達関係、家庭環境や地域環境が、子どもにとって、居場所となり自信につながっている学校園です。とりわけ、課題を抱えた子どもが安心して学びに向き合えるように、共に支えあい、学びあうことが基本です。

すべての教職員が、子どもの抱えている課題を理解し、共有して課題解決に取り組んでいる学校園こそ、子どもたちが元気の出る、そして教職員が元気の出る学校になります。

これまでの取り組みで、何を積み上げてきたのか、何が不足しているのかを明らかにして、「守るべきことと変えるべきこと」を打ち出さ

なければなりません。大阪の教育は、目の前の子どもから出発し、「子どもに向き合い」「地域に向き合って」きました。

子どもに向き合うとは、一人ひとりの子どもの学習・生活・人間関係・進路の課題を把握、理解し、そのための方策を立てて、学校全体で地域や関係機関とともに取り組むことです。

地域に向き合うこととは、家庭や地域に入り込んで、人々にしっかり向き合うことです。

信頼関係を築き、学校・家庭・地域の協働関係を構築しなければなりません。つながることで教育コミュニティができます。

今、私たちが向かうべき教育のあり方、つけるべき教育力について、「つながりが教育力となる」とご講演を締めくくられました。

◇校園長研修会(5)では、10月26日(月)、大阪人間科学大学の服部祥子名誉教授に「生きる力の源となる学力を育てる」～幼稚園から高校までの学校園・家庭・地域の絆～をテーマにご講演していただきました。

専門的な立場から、発達段階に応じて育むべき力と、生きる力のとらえ方について話していただきました。

発達段階に応じた学校園・家庭・地域が果たす役割として、「思考する力、判断する力、表現する力、コミュニケーション力」をそれぞれがいかに豊かに育てるかについて、丁寧に教えていただきました。

今後も、気づき、出会う場となる研修を企画・運営していきます。

教職員の資質の向上をめざして

～キャリアステージに対応した研修～

近年、新任教員の採用が増加傾向にあり、今後も続くことが見込まれます。そこで、若手教員の確かな指導力の育成が喫緊の課題となっており、それに対応するために、自らの能力や適正に応じて必要な研修を積むことができるよう、キャリアステージに応じた研修体系の改善を推進しています。

1 新任教員研修会

採用1年目の教員は、基礎的な資質・能力を育成するために、全校種共通の研修を13日間（幼稚園は11日間）実施しています。さらに、校園種別の教科等研修も12日間実施しています。

4月の開講式に始まり、5月は「マナー研修」、6月は、ロールプレーを用いて、「保護者との良好な関係づくり」の研修を実施しました。夏季休業中は、集団づくりの研修として、大阪市立信太山青少年野外センターキャンプ場、住吉スポーツセンターに会場を移し、実施しました。どの研修においても、いきいきと参加し、積極的に研修に参加していました。



【野外活動（野外炊飯）：信太山にて】

2学期以降は、特別支援教育、人権教育研修を実施しています。まとめとして、2月には、

1年間をふり振り返り、取り組みの成果と課題を報告し、2年目へステップアップできる研修を実施しています。

2 2年次研修

経験2年目の教員には、教員としての自覚を高めるとともに、実践的な指導力の向上を図ることを目標に①共通研修：「子ども理解」、②人権教育研修、③共通研修：「保護者から2年目教員に望むこと」、④研究授業、⑤選択研修（教科等指導力向上研修などから1つ以上選択して受講）という内容で2年次研修を実施しています。特に、研究授業の実施を全ての2年目教員が行うことによって、確かな指導力の育成をめざしています。

3 5年次研修

経験5年目の教員には、教育活動に対する自己の課題をしっかりと把握し、研修を自主的に進めていくことが求められます。



【共通研修：「My Plan」を立てる受講者たち】

今までの実践を振り返り、長所を伸ばし、短所を克服しながら、教師としての専門性を高めていくことをめざしています。共通研修：①「本市校園の課題と教職員の役割」、共通研修：②「教

師力の向上をめざして「自己の課題と研修」の他に、自己の目標に合わせて、「教科等指導力向上研修」、「人権教育に関わる研修」から一つ以上選択して研修しています。また今年度から、研究授業も実施し、より確かな指導力の育成を図っています。

4 10年次研修

経験10年目を迎える教職員には、これまでの経験を活かし、さらなるキャリアアップをめざすとともに、広い視野をもって、学校園を支える推進力としての役割を果たすことが望まれます。全体研修で、さまざまな課題について講義を受けたり、班別に協議し、中堅教職員として果たす役割についての意識を高めるための演習を実施しています。また、教育センター・大阪市立科学館・歴史博物館・大阪市立大学などの施設を活用して行う「課題別研修」を、教職員が自ら選択し受講しています。今年度から教員免許更新制度導入により、地域での社会体験研修あるいは大企業における民間企業研修のいずれかを選択して受講することになりました。

以上のような研修メニューの中から、民間企業研修の様子をご紹介します。

この研修は、社会の変化に素早く対応している企業活動の実態にふれ、新しい発想やユニークな視点を育て、学校園の活性化や特色ある教育活動の推進に活かすことを目的としています。

今年度は、ニッケ、日本ペイント株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社きんでん、西日本旅客鉄道株式会社の5社の「民間企業研修」に29名の教員が参加しました。

日本ペイント(株)では、寝屋川事業所を見学し、「カラーカード」を使って、色を測る実習等を体験しました。安全管理や環境保全への取り組みが、会社だけでなく地域社会に向けられていることを知りました。



【日本ペイント(株)】

(株)きんでんでは、高所作業車に搭乗して昇柱訓練を行う外線工事实習、パイプ加工や結線作業等の屋内配線実習など貴重な体験をしました。



【(株)きんでん】

大和ハウス工業(株)では、事業を通して人を育てるという企業理念に基づく社員教育の方針・方法が分かりました。また、総合技術研究所や住宅展示場を訪問し、営業での対応の仕方や職場の環境の大切さを学びました。



【大和ハウス工業(株)】

以上のようにキャリアステージに応じた研修を実施して、今後も教職員の資質・能力の向上への支援に努めていきます。

活力ある学校園経営に向けて

—【基礎編】【発展編】—

1 目的

将来の大阪市における教育の中心となる中堅教員を対象に実施しました。【基礎編】では、一人一人がその役割を自覚するとともに、専門性の向上を図り、活力ある学校園経営に関わる資質の育成を目的にしています。【発展編】では本市における学校園教育の現状と課題について理解を深め、将来を見据えた学校園経営の実践的専門知識を習得し、視野の拡大を図り職務の多様性に対応できる能力の育成を目的にしています。

2 内容

5月～11月の月1回、【基礎編】113名(全校種)、【発展編】90名(全校種)の合計203名が登録し、全体会と分科会(校種別班別研究協議)の2部構成で、【基礎編】【発展編】ともに各6回実施しました。

(1) 全体会

【基礎編】

- ①「学校マネジメント研修会に期待すること」
- ②『大阪市教育改革プログラム 重点行動プラン2008・2011』
- ③「学校園運営と法規のかかわり」
- ④「保護者との関係づくり」
- ⑤「危機管理に関するマネジメント」
- ⑥「これからの大阪市の学校園教育について」

【発展編】

- ①「学校マネジメント研修会に期待すること」
- ②『大阪市教育改革プログラム 重点行動プラン2008・2011』
- ③「学校評価について」
- ④「学校組織マネジメント」
- ⑤「校種間連携」
- ⑥「こ

れからの大阪市の学校園教育について」

(2) 分科会(校種別班別研究協議)

【基礎編】【発展編】ともに全体会での講話を受けて基本的に校種別班別研究協議を行いました。また、自校園のミッション探索やSWOT分析、ケーススタディ、クロスロードゲーム等の手法を用いて班別研究協議を実施しました。

3 受講者の感想

- ・ 学校全体を見る視野を広げるのに大変参考になりました。
- ・ 他の学校園、異校種の教員とディスカッションをすることにより、情報の収集ができました。
- ・ 「学校組織マネジメント」では、SWOT分析をとおして、自分の考えを整理することができ客観的に自校の課題が良く分かりました。
- ・ 「学校園運営と法規のかかわり」でのケーススタディや「危機管理に関するマネジメント」でのクロスロードゲームをとおして、具体的な事例を考えることができ有意義な研修でした。
- ・ ディスカッションの時間が短く、もう少し時間の確保が望まれます。

4 今後の予定

平成22年度はさらに受講者を増やし、【基礎編】【発展編】の2コースを系統だてて実施し、研修内容を充実することにより、中堅教員としての学校園経営に関わる資質及び職務の多様性に対応できる能力の育成を図っていきます。

特別支援教育のさらなる推進をめざして

—全ての教員の研修受講に向けて—

1 平成 21 年度の重点課題

今年度も昨年度に引き続き、特別支援教育の更なる推進を目指して、各校園の「全ての教員の研修受講に向けて」を重点課題として取り組みました。

○「発達障害の理解と支援」に関する研修の充実

昨年度から 3 年計画で、市内の全ての教員(約 12,700 人)に「発達障害の理解と支援」に関する研修を受講していただくことを目標に、各種の研修会を実施しました。また、それだけではなく、夜間セミナーを 12 日間実施したり、各校園の指導要請に応え、講師として特別支援教育研修会に参加しました。その結果昨年度は 4,157 人、今年度は 5,122 人の教員に「発達障害の理解と支援」に関する研修を受講していただくことが出来ました。来年度末の目標達成に向けて、今後さらに取り組んでまいります。

○「発達障害の理解と支援」に関する DVD の活用

昨年度、各校園内の研修会で利用できるように DVD を作成し、全校園に配布しました。

また、各校園のニーズに合わせた研修会が開催できるように、研修会の開催例もホームページにアップし、活用を呼びかけています。昨年度末と今年度の活用状況を調査した結果、研修会を開催した校園が 248 校で、参加者は 4,856 人でした。更に、研修会以外でこの DVD を視聴した教職員が 1,825 人おり、合わせて 6,681 人の教職員が視聴し、「非常に勉強になった」「発達障害の理解と特別支援教育の推進のためにた

いへん役立つ資料である」などの感想をいただいております。各校園で引き続いての、活用をよろしく願いいたします。

2 コーディネーター養成研修からコーディネーター研修へ発展

平成 18 年度より開催してまいりました「特別支援教育コーディネーター養成研修」は、19 年度にフォローアップコースを、20 年度にスキルアップコースを開始し、段階的に力量を高める研修を実施してきました。平成 20 年度までの 3 年間で、全コースあわせて 1,087 人の修了者が出ました。そこで、今年度からは、その名称から順に「養成」を取り、各校園の特別支援教育コーディネーターの教職員が、そのニーズに応じて、どの研修でも受講できるようにしております。フォローアップコースについては来年度から、スキルアップコースについては再来年度から順次改編し、特別支援教育コーディネーターの皆さんが、いつでも受講することのできる「特別支援教育コーディネーター研修」として実施します。

3 成果と課題

特別支援教育の深化・充実に伴って通常学級における支援の重要性が理解されてきました。多様なニーズに応えるような研修会を今後も開催してまいります。また、従来の養護教育の対象であった特別支援学級在籍児童・生徒に対する障害種別ごとの指導のあり方についても、更に研修を深めていきたいと考えております。

ICT活用指導力の向上をめざして

1 平成21年度のねらい

今年度の情報教育研修は、子どもたちが「わかった」「できた」と実感できる授業の実現に向けて、次の2つの改善に取り組みました。

○実技研修会の内容、開催時期の見直し

より多くの教職員が実技研修会を受講できるよう、研修内容・開催時期の見直しを図る。

○スキルに応じた研修体系の充実

入門編は夜間セミナーで、より専門的な内容はシステム運用研修会で担当し、実技スキルに応じた研修体系の充実を図る。

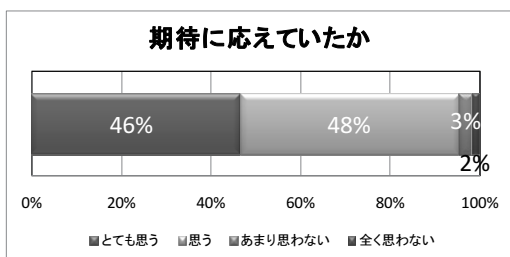
2 主な研修の紹介

(1)Word 応用コース

通常の業務でよく利用するソフトウェアの1つがワープロソフトの「Word」です。今年度のWord コースは「文書編集」をテーマとして、余白から文字までの幅（インデント）の設定や段組み、表中の行間、文字間の設定やオブジェクトの利用、縦中横などの応用操作を中心とする内容としました。

「研修内容は期待に応えたものであったか」という設問に対して、「とても思う」「思う」と回答した受講者が94%と高い割合を示し、新しい研修内容は効果が上がったといえます。

アンケートの自由記述には「インデント、フ



ッター、ヘッダーなど今まで疑問に思っていたことが解消できた」と肯定的な意見が多く寄せられました。しかし、「画面を見て学ぶことが多かったのも、実際に操作する時間を多くしてほしい」という要望もあり、改善に努めていく必要があります。

(2) PowerPoint 活用コース

このコースのねらいを「効果的なプレゼンテーション作成に必



要なスキルの習得」としました。

基本的なスライド作成のほかに、Excel 表やグラフを挿入したり、オートシェイプを使ったりしながら、オリジナルなプレゼンテーションの作成に取り組みました。「研修内容は期待に応えたものであったか」という設問に対して、「とても思う」「思う」と回答した受講者が96%とさらに高い割合を示しました。「研究発表の資料を作成中のため、とても参考になった」など、教育実践に結びつく回答が数多くありました。

3 まとめ

今年度の情報教育実技研修会の参加者は、のべ1669名で、昨年度より減少しました。

原因の一つとして「研修レベルがわかりにくい」という声が寄せられています。研修内容や対象者等の周知の仕方に工夫を加え、よりわかりやすいものとなるよう改善に努めたいと考えています。

見てふれて感じ体験する人権教育研修をめざして

1 平成21年度のねらい

新学習指導要領に示されている「生きる力」とは、人権教育がめざすところの「それぞれのちがいを認め合い、他者と共感し合い、豊かなコミュニケーションをつくり出すこと」と深く関わっています。つまり、人権教育の視点は、「生きる力」を育むために、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動の特質を踏まえ展開される様々な教育活動をつなぐ基盤であると考えます。教職員自らが人権の大切さを実感し、自分自身の生き方を通して人権教育を実践していくことができるよう、感動のある実践的な研修を実施するように努めました。

2 主な研修の紹介

(1) 実践講座

夏季休業期間を中心に「基礎編」「発展編」に分けて6回実施しました。その中で、特に受講者に好評であった第2回「共生の社会をめざして」の様子を紹介します。

第1部は「韓国・朝鮮の歴史や文化にふれよう！」をテーマに、教育センター宋英子研究官と国際理



ジャンボユンノリを囲んで

解教育推進事業総括研究支援員の岩本典子教諭を講師に、遊びや歌を通して韓国・朝鮮の歴史や文化を楽しく学びました。第2部は「いのちと防災を考える」ことをねらいに、災害時に障害のある人とない人が協力して避難できる地域

社会をつくろうと活動されている「おおさか行動する障害者応援センター」の障害のある4人の方に講師として来ていただき、小グループで



盲ろう者の方を手引きする場面

生活の様子や介助の仕方を聞き、その後実際に避難訓練の体験をしました。

(2) 全体研修会

年間3回実施しましたが、第2回「絵本『ひらがなにつき』～字をにぎりしめて生きること～」では、絵本のモデルとなった富田林識字学級で学ぶ84歳の吉田一子さん、吉田さんの娘の清水順子さん、絵本作家の長野ヒデ子さんに来ていただき、60歳で初めてひらがなを覚えた吉田さんの暮らしぶりや絵本にこめた願いについてお聞きしました。



吉田一子さん



長野ヒデ子さん

3 成果と課題

教育センターで行われる研修以外にも、地域人権教育推進委員会が企画する地域研修において様々な課題に対応する幅広い人権教育研修会を実施してきました。人権教育を大切な教育の柱として教育活動を展開できるよう、経験年数に応じた段階的な学びの場をつくとともに、感動のある体験的な学習を通して実践力を高めることができるよう更に工夫していきます。

食に関する指導の充実をめざして

1 平成21年度のねらい

学校における、食に関する指導を推進する中核としての役割や職務を果たせるよう、次の3つのねらいに基づき、研修を実施しました。

- 「食に関する指導の全体計画」を進める具体的な方策について理解を深め、実践力を養う。
- 授業参観、研究授業を通して、指導力の向上をはかる。
- 「食」に関する今日的な課題について、知識理解を深め、専門性を高める。

2 主な研修の紹介

(1) 新任研修

栄養教諭の職務や役割について理解を深め、実践力を身につけることを目的としています。「学校給食事務」「献立作成」「衛生管理」「食に関する指導の進め方」「個別指導」「研究授業」等、必要な基本的内容について、実施しました。

(2) 5年次・10年次研修

経験5年、10年を迎える学校栄養職員に対し、食に関する指導の実践に向け、幅広い視野を持てるような専門研修を実施しています。

具体的には、食に関する指導の全体計画に基づいた、先輩の授業参観、実践報告をはじめ、受講者による研究授業・研究協議、企業や公共施設等におけるフィールドワークを行いました。



(3) 実技研修会

食に関する指導を進める上での専門的な知識や技術を習得することを目的としています。今年度は、大阪市が進める栄養教育推進事業の進め方や教材作成、話し方や、科学的に見たおいしさについて講義と演習を行いました。

(4) 課題別研修会

学校給食が直面している諸問題や食に関する今日的課題に対する専門的知識を身につけることを目的としています。食中毒の現状、企業における食育の実際、授業づくり、なにわの食文化、免疫力について理解を深めました。

(5) 専門Ⅰ研修会

献立作成に生かすため、中国料理の特長についての講義と調理実習、吹田市の学校給食についての講義などを行いました。

(6) 専門Ⅱ研修会

効果的な情報提供や啓発活動を行うことを目的とした、パソコン研修を実施しました。スキャナ・インターネット・画像を使った食育資料を作成しました。

3 成果と今後の課題

食に関する指導を充実するためには、全教育活動で、教職員・家庭・地域が連携して行われることが望まれます。研修を通し、食に関する全体計画の達成に向けた課題を明らかにし、指導力や実践力を高めることができました。今後は、さらに専門性を磨き、各校での食に関する指導の広がりや定着を図るため、課題解決に結びつく研修内容を考えていきたいと思ひます。

学校経営に積極的に参画するために

1 研修実施の目的

新任・採用2年次研修は、実務能力や調整力向上を、その他の研修では、行政職員として学校経営に積極的に参画するための企画・調整・判断力向上を目的として、実施しています。

2 学校事務職員研修の紹介

(1) 新任研修

基本的な知識の習得と実務能力の育成を目的として、3期にわたり実施しました。「講義」「実務実習」「先輩講話」「事例研究」「普通救命講習」など、幅広い内容を実施しました。

(2) 採用2年次研修



事務処理中心の仕事から学校経営に参画するためのステップアップとして

「事例研究」「グループ討議」などを行い、「教育課程」についても学びました。また、各業務の実務能力を更に高めるため、Q&Aを取り入れた講義・実習を行いました。

(3) 5年次研修

「ディベート」「手話入門」「学校組織マネジメント」「論文の書き方」など、論理的思考力やコミュニケーション能力を高める内容を中心に実施しました。「体験ディベート」では、分析力や説明力、チームワークについても学びました。

(4) 第二次研修

「大阪市の学校教育の現状と課題」「コンプ

ライアンス」「組織とリーダーシップ」「学校組織マネジメント」の講義や課題討議など、高度な経営力育成を目的として実施しました。

(5) 第三次研修

教育行財政の指導的立場にある者として、幅広い社会的視野を持ち、リーダーとしての自己認識を深めることを目的として「大阪市政」「特別支援教育」「健康管理」の講義を実施しました。班別討議「職場の課題・私の課題・果たすべき私たちの役割」では、活発な意見交換が行われました。

(6) 事務副主任、事務主任、事務主幹研修

事務職員の資質向上のための指導的、中心的な役割が果たせるよう、それぞれの職に応じた研修を実施しました。「学校組織マネジメント」「コーチング」「ファシリテーション」などの講義・演習、「班別討議」を行いました。

(7) 一般課題別研修

共通の課題について、幅広い知識と教養を習得し、職員としての資質向上を図ることを目的として実施しています。今年度は「“不登校・引きこもり・うつ”状態の『こころ』への弊害となる対応・援助について」と題して、講演を行いました。

3 成果と課題

「学校組織マネジメント」の講義・演習、「班別討議」等を通して、経験年数や職に応じた自らの課題について考えることができました。今後も学校経営を担う事務職員の資質向上につながる研修を実施します。

指導力を高め・授業改善をめざす

<小学校国語科研修会>

国語科における基礎・基本の確実な定着を図るため、「書くこと」「読むこと」の指導のポイントや言語活動例を具体化する授業作りについて講話を行いました。また、教員の授業改善を図るため、授業作りや指導方法については、小学校教育研究会国語部ならびに学校図書館部の先生方にもご協力いただき、実践事例に基づく学習指導の基本や工夫について研修を実施しました。模擬授業やワークショップなどの、参加体験型の実践的な内容でした。

<小学校算数科研修会>

子どもたちにとって、よく分かる楽しい算数科の授業をめざし、教材分析の仕方や指導方法の工夫について研修を実施しました。指導案作成の演習については、小学校教育研究会算数部の先生方にご協力いただき、参加者各自が考えた授業のアイデアをもとに進めました。また、新しい学習指導要領の趣旨をふまえ、ひし形の面積を求める公式を考える授業も公開していただきました。研修を通して、問題解決学習の進め方について具体的に理解を深めることもできました。

<中学校国語科研修会>

新学習指導要領をふまえ、小・中学校9年間の学習のつながりを視野に入れた国語科の授業構想や指導方法について研修し、実践的な指導の工夫・改善を図ることをねらいとして研修を

実施しました。大阪教育大学の住田勝准教授による「読解力構造モデルを中心に指導系統性を重視した授業改善」についての講義や単元間・学年間の学習の内容の関連を視野に入れた授業づくりの研修など、学習のつながりを重視した学習指導案づくりによる具体的な指導方法の工夫・改善をめざす内容でした。

<中学校数学科研修会>

移行期間中に、中学校数学科において現行の教育課程に新たに追加して指導する「資料活用」の領域について、資料の具体的な指導計画を提案し、数学的活用を伴った模擬授業を実施しました。その後、関西国際大学の柳本哲教授による指導助言を得て研究協議を行いました。受講者からは、「指導の際の発問や説明の留意点を明確にできた」という感想がありました。

<中学校・高等学校英語科研修会>

英語科教員の「実践的コミュニケーション能力」の育成、特に「聞く」「話す」に関する英語運用能力及び英語指導力の向上を図ることを目的として実施しています。ALTとの研修では、積極的に英語でコミュニケーションを図る受講生の姿が見られました。また、今年度は、関西外国語大学の中嶋洋一教授による講演とワークショップを通して、「教師の質問力を高める」研修を実施しました。



校内の理科学習における授業力向上をめざす

1 ねらい

子どもの理科学習についての意欲を高め、学力の向上を図るためには、実験、観察の基礎技能及び安全指導、教材作成等についての知識・技能を習得した教員の育成が必要です。昨年度開催しました「小学校理科指導力向上講座」を、今年度も年間10回実施しました。

2 研修内容の紹介

(1) 第1回 6月10日

「理科教育の進め方」と題して、講師に大阪市立小路小学校長の藤倉憲一（大阪市小学校教育研究会理科部部長）先生をお迎えし、新学習指導要領を見据え、現在の理科教育の課題から、今後の理科教育の展望について実践例を交え、わかりやすく講演していただきました。

(2) 第2回 7月3日

大阪教育大学教授の松本勝信先生をお迎えし、「小学校における現在の理科教育の課題と今後の理科教育の進め方」についてご講演いただきました。理科学習における見える学力と見えない学力についてもわかりやすく解説していただきました。

(3) 第3回～第6回 夏季休業中



【大学での研修の様子】

大学コンソーシアム大阪と連携し、実験・実

・連携大学：近畿大学、大阪工業大学、大阪府立大学、大阪市立大学（順不同）

習の研修を中心に実施しました。大学の実験室等で、教授、准教授等の方々に講師を依頼し、専門的なことをわかりやすい解説と指導を通して、小学校理科においても応用できるように指導していただきました。

(4) 第7・8回 7月下旬～2月中旬

大阪市立科学館、自然史博物館で開催される研修の中から、選択して研修できるようにしました。自己の課題に合わせて、自主的に研修に参加していただきました。

(5) 第9回 10月28～30日（3日のうち1日）

「理科支援員等配置事業」の現状と展望についての実践報告を実施しました。「特別授業」実践報告の追体験として、身の回りの物を用いて、スピーカーづくり等を行いました。

(6) 第10回 2月17日

講師に兵庫教育大学教授の溝邊和成先生をお迎えし、「学校内において理科教育を推進するときの実際の課題について」ご講演いただきました。講演の後は、自校での伝達研修等の具体的な実践の報告と意見交換をし、講師先生のご助言もいただきました。

3 まとめ（成果と課題）

アンケート調査の結果から、約8割の受講者の高い満足度を得ました。しかし、校内において伝達研修等により、研修成果を広める活躍をされている方は少数です。研修成果をより広めるため、今後は、第10回の意見交換を受け、実践例の紹介と校内研修モデルプランの提示等を考えています。

指導への自信と意欲を高める外国語活動研修

1 研修のねらい

平成23年度から、小学校外国語活動が完全実施になります。大阪市では、移行期間中の平成21年度は年間9時間程度、平成22年度は年間18時間程度各小学校で取り組み、円滑な導入を進めています。移行期間中に、全ての教員が、外国語活動の指導ができる力量を身に付けていただけるよう、研修を進めていくことが重要だと考えています。

そこで、教育センターでは、「これなら自分にもできそう!」「やってみたい」と、教員が自信と意欲を高められるよう、教育センター等で年間6回、研修会を実施しました。受講した教員には、伝達研修を含めて、校内研修を企画・運営することも目的としています。

平成21年度は、全市小学校から1名、特別支援学校(小学部)5校から1名ずつ、計304名の教員が受講しました。

2 研修の紹介

◇ 研修会(1) 理論:講義

指導にあたっては、学級担任が中心となって行いますので、全ての教員に、「どんなねらいで外国語活動を行うのか」「どんな内容を、どんな方法で指導したらいいのか」を十分に理解していただくことがとても重要です。そこで、長年大阪市の外国語活動の指導に関わっていただいている、大阪成蹊大学の國方太司教授に「小学校における英語活動等国際理解活動のあり方」というテーマで講演していただきました。受講

者からは、「外国語活動のあり方、進め方を分かりやすく講演していただきました。」「英語に苦手意識を持っているので、自分にできるのだろうかと不安に思っていたのですが、少し安心しました。」などの感想が寄せられました。

◇ 研修会(2) 実践報告「校内研修の進め方」

学校を挙げて外国語活動に取り組んでいる様子や校内研修の内容などを聞き、自校の外国語活動のあり方や、研修計画などを考えていただく研修を実施しました。

大阪市立東小橋小学校は、「すすんで英語に親しもうとする態度を育てる」を研究テーマに、1年生から外国語活動に取り組み、全教職員で教材づくりや、指導案の検討などを行っています。ご紹介いただいた取り組みや年間指導計画は、各校での研修計画の参考になりました。

◇ 研修会(3) 演習:関西外国語大学にて

この研修は、教員が今まで学んだ英語の感覚を取り戻し、クラスルームイングリッシュなど簡単な英語を自信をもって発話できるようにすることを目的としたものです。研修はほとんど英語で進められます。自己紹介からスタートして、いろいろなゲームやアクティビティを、児童になって体験しました。また、小グループに分かれて、実際に自分たちでクラスルームイングリッシュを使いながら、ゲームを進めるなどの研修もありました。研修前には、「外国人講師の先生との研修は自信がない。」と不安げな教員

もおられました。研修後のアンケートでは、「充実していて、楽しい研修でした。」「英語の授業を受けたのが初めてで勉強になりました。」という感想が寄せられました。

◇ 研修会(4) 模擬授業等 演習

関西外国語大学で、さまざまなゲームや歌、言葉に触れた後、「英語ノート」を活用し、体験的な模擬授業形式の研修を行いました。外国語活動に取り組んでいる小学校の教員を講師に招き、学級担任が一人で行う授業や、チームティーチングでの授業など、受講者が児童になって授業を体験しました。



◇ 研修会(5) 指導案作成・発表 演習

「英語ノート」を活用すれば、指導ができることはわかってきたものの、実際に授業をしてみると、まだイメージがつかめない、という教員が多くおられます。この研修会では、小グループに分かれて、「英語ノート」の中から、実際に指導案を作り、教材を使いながら授業を発表し合うという研修を行いました。短時間にもかかわらず、さまざまなアイデアや教材が飛び出し、受講者の意欲が感じられる研修となりました。



◇ 研修会(6) 講義:小中連携について

小中連携は、外国語活動においても大きな課題です。しかし、実際にはなかなか進まないという悩みの声も聞かれます。そこで、前文部科学省教科調査官である、大阪樟蔭女子大学の菅 正隆教授を講師に招き、講義形式で研修を行いました。この研修には、中学校・高等学校の英語科の先生方も参加しました。小学校外国語活動のねらいを正しく理解するとともに、中学校・高等学校にどのようにつないでいくのか、またお互いに連携しあえる点はどのようなことか、などについて考える機会となりました。

3 さらに「楽しい！」と思える研修に

子どもたちが、外国語を通して「通じた!」「わかった!」という実感を味わい、外国語を通し、人とふれ合う楽しさを体中で感じられるような外国語活動が求められています。教育センターにおいても、来年度、さらに多くの教員が、自校のニーズに合わせて研修が受けられるよう、研修日程や研修内容を検討しています。各校で計画的に研修が進むよう、具体的な研修計画の提示や、研修に役立てられる資料の配付もしていく予定です。

小・中学校の連続性を重視した研修

今年度、小・中学校9年間の学習の系統性を重視した教科指導を充実させるため、各教科の専門性を深める研修を小・中学校合同で実施しました。

1 小・中学校 国語（1）（2）

第1回目は、「教育・国語教育・国語科教育」という内容で、兵庫教育大学名誉教授の中渚正堯先生を講師にお招きし、新学習指導要領を踏まえた、これからの国語教育について講話をしていただきました。とりわけ、新学習指導要領では、言語活動の充実が重要視されており、各教科との連携をはかりながら、言語活動に取り組む必要性をご示唆いただきました。

第2回目は、『批評する』主体を育てる国語科指導の構想」という内容で、大阪教育大学准教授の住田 勝先生を講師にお招きしました。読解力構造モデルを中心に指導の系統性を重視した授業づくり・授業改善について、小・中学校それぞれの教材を使って講話をしていただき、より実践的な研修となりました。

2 小・中学校 算数・数学（1）（2）

第1回目は、「新学習指導要領とこれからの算数数学教育 ―先行実施からの挑戦― 」という内容で、大阪成蹊短期大学教授の小西豊文先生を講師にお招きし、新学習指導要領の特色とこれからの算数・数学指導について、演習を交えて講話をしていただきました。表現力の育成や活用力を高める手立て、算数から数学へのなだらかな接続のあり方などについて、校種をこ

えた視点で学ぶことができました。

第2回目は、「全国学力・学習状況調査を踏まえた授業改善について」という内容で、奈良教育大学教授の吉田明史先生を講師にお招きし、講話をしていただきました。学力調査の結果をもとに、指導方法の改善のポイント、算数・数学的活動の充実など、授業改善に向けての指針となる研修でした。

3 小・中学校 外国語・英語（1）（2）

第1回目は、「新学習指導要領の趣旨をふまえ、外国語・英語を通した小・中学校連携について」という内容で、大阪樟蔭女子大学教授の菅 正隆先生を講師にお招きし、講演していただきました。外国語活動における小中連携の重要性、とりわけ中学校が、小学校の指導内容・指導方法を理解し、その延長上で指導内容・指導方法を工夫する必要があること。また、小・中学校の教員間の情報交換を通じて、互いに理解を深めることも重要であることをご指導いただきました。

第2回目は、「小学校外国語活動及び中学校英語の授業づくり」という内容で、関西外国語大学教授の中嶋洋一先生を講師にお招きし、講演・ワークショップをしていただきました。新学習指導要領をふまえた授業づくり、小・中学校の指導内容の比較、配慮すること（小中の連動）など、今後の外国語活動に生かしていける研修でした。